

エコニュース さって



第 32 号

平成 22 年 4 月 9 日
幸手市市民環境会議
(さって市民環境ネット)
TEL48-0331

落葉リサイクルで腐葉土づくり

第 52 回腐葉土づくりの会

今年度最初の腐葉土の頒布を行いました！

雨の合間を見て、3 月 6 日（土）、畑が少しぬかっていた
ましたが、種ジャガイモの植付けを行いました！



2010 年 2 月 21 日（日）10 時、晴、今年度最初の腐葉土の頒布と種ジャガイモ植付けを予定していたことから 24 名の会員が集まりました。冒頭、会長より 27 日（土）の菜の花プロジェクトの市民環境講座の案内があった後、事務局から、先ず予定していた種ジャガイモ植付けを、こここのところの時より降る雪のため畑がぬかっている地主が畑を耕す機会がなく 28 日（日）に延期したことと、また前日、20 日（土）、会長と事務局でキタアカリ 10kg、メイクイン 10kg、男爵 5kg、トヨシロ 5kg の計 30kg をジョイフル本田で購入している旨を報告しました。

事務局と野澤顧問からの作業手順に従って女性達も混じって腐葉土の 50 袋（45L）の詰め作業、男性達が 2 基、3 基の切返し作業を行い、そして女性達は踏み込み作業を行いました。また、腐葉土を 6 つの大袋に入れて種ジャガイモを植える予定の場所（畑）に撒きました。

腐葉土 50 袋は、運営資金として 100 円/袋で参加会員に 1～2 個ずつ頒布されました。

最後に、天気予報では思わしくないですが 28 日（日）に種ジャガイモ植付けを約束し散会しました。また帰りに地主のところへ立ち寄って畑の耕耘のお願いを確認しておきました。

その後、地主から 3 日間晴れが続いたので木曜日にたまたま別の用事で勤めを休んだので畑を耕したとの連絡がありました。しかし、天気予報とおりに金曜日の夜から土曜日が雨で 28 日（日）の種ジャガイモ植付けはできませんでした。事務局は次回 3 月 7 日（日）には天気予報も余り思わしくありませんが、何とか植付けを行いことから出席都合を聞き（16 名 OK）しました。

ただ、3 月に入って昼は晴れるのですが毎晩雨降りて畑の土が乾燥せず、金曜日（5 日）になって土日の予報を見ると土曜日（6 日）の午前は曇り、午後から雨で日曜日は雨（90%）との予報だったので、6 日の早朝、畑を見回ったところ、少しぬかった所もあるが何とか植付けができそうであり、早速、7 日（日）都合の良かった 16 人に電話し、結果的に 6 人の有志で植付けを行いました。6 日の午後から雨で 7 日（日）も 1 日中雨でしたので 6 日（土）の午前に植えることができて良かったのですが、一方で種ジャガイモは水に浸かると腐る恐れがあり心配です。種ジャガイモ植付けは 5 年目となりますが、今回は天気が不安定で土日の天気都合に合わせ、地主が折角畑を耕してくれたのを放置して置けず、そして種ジャガイモの芽が伸びてしまうこととの 3 つを上手く組み合わせることがいかに難しいことかを実感しました。

次回は、予定とおりに 3 月 21 日（日）開催としました（澤村）。

平成21年度 さちネット環境講座報告！

第1回 1月23日(土) テーマ「身近な資源“地中熱”の活用」

講師：NPO法人地中熱利用促進協会 大島和夫 氏

地球内部の地熱エネルギーは、火山や温泉など私たちには馴染みの深いものだが、その利用は温泉入浴や地熱発電以外にあまり広く行われていませんでした。

最近、地下100mより浅い地層の恒温層（13～5℃）を「地中熱」として利用する事例が多くなっています。

この仕組みは、地下より15℃の温度を汲み上げ、ヒートポンプを通して変化する外気温度と地下の恒温層との熱交換を行うものであります。夏の外気や室内は30℃以上であり、汲み上げられた15℃の冷気をヒートポンプで室内に供給し、代わりに30℃の熱気を回収し、地下の冷たい個所に放熱します。冬はこの逆であり、北海道や東北地方の降雪地では、歩道や施設出入り口の融雪に利用されています。

地中熱は、現在建設中の「東京スカイツリー」の地域熱供給事業に採用されており、また東京都が進めるヒートアイランド現象の研究でも取り上げられています。地中熱は再生可能な自然エネルギーであり、CO2発生のない省エネルギーとしてヨーロッパでは広汎に、積極的に利用されています。日本でも地球温暖化防止の視点で今後の発展が期待されています。

報告：中山

第2回 2月13日(土) 幸手市環境活動団体の活動発表交流会

すべての環境に「ありがとう」 幸手ひがし幼稚園 園長 中村和枝さん
ケナフ栽培で地球温暖化防止 権現堂地域環境保全協議会長 増田順子さん
クマと もりと ひと 日本熊森協会 関 昌子さん
気持ちのいい川を目指して 倉松探検隊 隊員 鈴木光男さん

環境をキーワードに市内で活動している4団体からの発表と参加者との交流会は初めての試みでしたが、今まで知らなかった活動や取り組みを聞き大変勉強になりました。また講師との交流では個人の体験や苦労など様々な話で盛り上がり、大変楽しい時間となりました。

幸手で活動している皆さんは凄い！報告：宮田



第3回 2月27日(土)

テーマ「皆さんの力で菜種油を！」

廃食油から石鹸づくり 幸手市くらしの会 中村 孝子さん
権現堂の桜、菜の花今昔 NPO 法人 権現堂桜堤保存会 中村 誠さん
搾油機の始動説明・事例紹介と今後の展望 さって市民環境ネット 中山 駿さん

幸手市くらしの会の方々始め多くの市民が参加して、地球にやさしい固形せっけん作り、権現堂桜堤保存会による活動報告ならびにさって市民環境ネットの中山氏による菜の花プロジェクト講演がありました。その中で埼玉県内又は全国に有名な幸手市権現堂桜堤脇の菜の花畑、観賞後の菜種の実をなんとか利用できないか！「もったいない」の一声を基に広く市民に知って頂く為今回上記の講演と実際に菜種を搾る実演を行いました。

先ず、唐箕を手で動かして、菜種のゴミを分別するのを実演し、その後、小型電動搾油機の構造の説明をした上で、菜種を入れて稼動しました。受講者には菜種の「かす」を手で触ってもらいカサカサになった「かす」を感じてもらいました。稼動時間も前日に試作で行った 2 カップ分を入れて丁度、延べ 200 分(3 時間 20 分)でした。菜種は約 15 Kg 強をかけました。「かす」は約 11 Kg (正確には 10,980 g) でした。700 g を袋に入れて 15 袋作りました。単純計算では菜種油は約 4 kg 出来たことになっておりますが。搾油機をお借りした岩井さんの話では「かす」は 3 分の 2 くらい出ると言っていました。今回は 73% と多かったようです。菜種の搾油は高久氏の手により行われ参加された皆さん実際に菜種の実が菜種油と油粕に分かれて出てくるところを実際に自分の目で確かめられ大変興味と驚きを示された。それだけ皆さんの関心の深さがきつとさって市民環境ネットの活動をより前進させるバネになるかなーと希望が持てる一日だった。報告：原田、高久

第 4 回 3 月 20 日 (土) テーマ「いちばん身近な(食べ物)の話」

講師：農林水産省 関東農政局 高村昭次氏 ・ 池田英一氏

幸手地産地消の会 新井様

先ず、農林水産省の高村昭次氏より、日本の食糧についての話がありました。

昭和 40 年代、米、野菜、魚中心の自給率 100% から肉、油を多く摂る食生活となり自給率は減少、現在 100% 自給出切るのは米だけとなるそうです。

日本の食糧自給率は現在 41% であるのに、1900 万 t もの食料廃棄物がある。これは世界の食料援助量の 3 倍にもあたる。世界では毎日 2 万 5 千人が餓死していると言うのに…。そして、現在食料を輸出しているところも、いざと言う時は自国内の供給を優先する輸出規制を実施している国が増えているので、輸入に頼っている日本は食糧不足になるとの事です。

確かに肉も魚も遠い外国からのものも多く、時々賞味期限切れの物が冷蔵庫に入っている我が家も反省!! です。

また、今、学校では子ども達に農業体験を通して“食”について考えようと言う取り組みが行われている事が同省、池田英一氏より紹介されました。早くからバランスの良い食習慣を身に付けることは大切だと思うのは、歳をとって食べなくなるものは子供の頃食べたものだと、私が今感じているからです。

安くて栄養価の高い、「旬」のものを選ぶ知識も身につけて欲しいと思います。

最後に地元米農家の新井さんから 9 軒の農家で農薬や化学肥料を半分以下に減らし有機肥料を多く使った“特別栽培米”の「コシヒカリ」や「彩のかがやき」と言うお米を生産している話とそのお米で作った「おにぎり」の試食があった。甘みのある美味しいおにぎりに参加者一同、舌鼓をうちました。農家の高齢化と米余りは日本農業の課題ですが、農業も漁業も何とか継続してゆける方法はないものかと考えさせられました。

“食は命なり”です。先ずは残さず食べることから始めよう。報告：藤城

今年度は 4 回の講座を開催しました。

すべての講座に参加いただいた方もあり、大成功のうちに終わりました。

今後のテーマなどご意見をお待ちしています。

第53回腐葉土つくりの会

熟成腐葉土の頒布と2基、3基の切返しを行い、その後、残っていた種ジャガイモ（メイクイン）を植えました！

予定の3月21日（日）が、前日からの春の嵐で開催が無理でしたので、急遽、1日延ばして22日10時から、まだ風の吹く寒い晴天のもとで、16名が参集して開催しました。

冒頭、会長から20日（土）の第4回市民環境講座（「食と農」）の参加のお礼と「菜の花プロジェクト」で観賞用のナタネの1割程度食用のナタネを栽培しており、桜の花を見るついでに見て頂き、また刈り取り時はご協力願いたいとの話がありました。

事務局からの作業手順案内に従って、男性は腐葉土2基、3基の切返し作業を行い、女性は1基の頒布用熟成腐葉土の袋詰めと種ジャガイモの頂芽を入れて1片60g程度に切り、抗菌用灰を付ける作業を行いました。

その後、全員が畑に行って約80cm巾（？）の畝作りと約30cm間隔で種ジャガイモ（メイクイン）10kgの植付けを行いました。種イモ植付けの間に元肥として化成肥料（窒素：リン：カリ＝8：8：8）を肥料焼けしないように注意しながら施肥し土を被せました。

2月中旬から3月上旬は天気が悪く、特に週末は雨、雪が降り、種ジャガイモ植付けを2週間延期して、雨の合間をみて若干ぬかるみのあった3月6日（土）に実施したため、植えた後に足跡が多く残っていました。植えた直後からも雨、雪が降り、土が固く締まっています、今回は畝作りに苦労しました。

種ジャガイモ植付けが終わり、桜泉園に戻って、袋詰めした熟成腐葉土を頒布し（100円/袋）、次回、4月18日（日）開催を約束し散会しました。

今回の種ジャガイモ植えは、最初の30kgは植えた後で雨が多くて水気が多く腐らないかの心配があり、後の10kgは芽が伸びすぎて欠けてしまう恐れがあり、次の芽が弱い芽となる心配があります。収穫に影響があったら、これも、天候とのタイミングで勉強と考えています。今後は、ウィークディでも有志でやることも考えねばならないと思います（澤村）。

菜の花(菜種)刈り取りのボランティア募集 第1回 皆さんの力で菜種油を！

権現堂桜堤の菜の花は私たちが楽しんだ後、実をつけています。みんなで菜種を刈り取りましょう。後日、菜種から油を搾ります。子どもも大人も楽しめるイベントです。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

- ・日 時 平成22年5月23日（日） 午前10時 ～ 12時
- ・会 場 幸手市権現堂堤の菜の花畑（上船渡橋側）
- ・集 合 公園第3駐車場（五霞町役場行きバス停留場近く）
9時30分より受付
- ・参加費 100円（保険料を含む）

刈り取り作業ができる服装でおいでください。（帽子、手ぬぐい、軍手、水筒など）

* 5月25日(火)予定の幸手小学校の生徒による「菜種の刈り取り」体験学習のサポート隊のボランティアも募集しています。

問い合わせ＆申込先 さって市民環境ネット 42-8412（本田）